

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600127		
法人名	医療法人社団千葉医心会		
事業所名	グループホーム島田 2階		
所在地	千葉県八千代市島田40-32		
自己評価作成日	令和4年1月31日	評価結果市町村受理日	令和4年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和4年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月の施設行事や毎日のレクリエーション活動を通じて利用者様のADL保持や向上を目指しております。日課としている毎日の散歩などの時には最近では地域の方々から気軽に声をかけていただき利用者様と世間話をされている姿も見られるようになってきており、このような地域の方たちとのふれあいを今後も大切に続けていきたいと思っております。生活面では利用者様の自立支援を基本とし職員は利用者様の自発的な行動を見守りながらご本人がご自分でやりたいことが出来るよう本人の意思決定が表現できる生活の場に出来るよう努めております。コロナ禍の現状において面会制限をせざるを得ない中、ご家族には毎月、居室担当より直筆のお手紙と利用者様、個々の日常生活や行事のご様子を写真に収め毎月送付しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を見やすい場所に提示し、いつでも確認できるようにしている。職員会議や学習会で運営理念を実現できるように話し合い散歩などでも地域の方々に積極的に挨拶をして交流を深めるようにしている。利用者様が笑顔で生活が送れるよう支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の防災訓練に参加するなど交流を深めている。散歩などでは地域の方々に会うと積極的に挨拶をして、時には声を掛けられ立ち止まって世間話を楽しまれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中でAEDが設置してあることや認知症サポーター養成講座の開催、認知症ステップアップ講座の受講生受け入れをしていることを周知している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では施設の現状の報告、介護相談員などの意見なども取り入れて職員の対応や地域交流や協力体制づくりなどについて意見交換をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市との連携はメールや電話、FAXで連絡をしている。入退去についても情報や現状報告をして協力を得ている。介護相談員、地域包括支援センターにも運営推進会議参加して頂き情報交換を行いサービスに生かせるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加しての伝達講習や職員会議、学習会で身体拘束の害について学び、拘束をしない工夫やコミュニケーションの活用について話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・適正化委員会を立ち上げ職員への周知に努めている。職員会議や学習会で日常生活の支援の中で、どのような事柄が虐待にあたるのか職員間で情報共有し利用者様の尊厳を守るように努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中に、この制度を利用されている方がおり、ご相談や職員の情報が必要があれば関係者と連携が取れるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談や契約時には必ず詳細な説明をして不安なことや、ご本人ご家族の意向を聞き出し理解していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や介護相談員来所時に利用者様の想いや意向を聞き出して理解していただけるようにしている。ご家族が面会にいらした際にもご利用者様と共にご要望を聞き、運営に活かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で議論された職員の意見、課題は改善策を話し合いすぐに実行する。また内容によっては管理者会議などで他の事業所の意見を聞いて運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者の報告を受け職場内での環境や勤務状況を把握して職員の補充など働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会や他施設との事例検討会への参加、外部研修で学んだことを学習会で伝達講習を行い職員全員が情報を共有し学びスキルアップが図れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八千代市のグループホーム部会などの会議で他施設との交流の場があり、その中で情報交換を行い、ケアのあり方や各種サービスの質の向上に取り組んでいる。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族との面談や施設見学時には意向や心配事、不安要素に耳を傾け様子を見させていただきホールで他の利用者様とお茶を飲んだり談話をする機会を設けて施設の雰囲気を感じていただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で、まずは施設見学をしていただき生活の様子や雰囲気などを感じていただき、そのうえで疑問や不安、要望などに耳を傾けご理解や信頼を得られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との面談や施設見学時には、普段の生活のご様子、日課としている事、困っていること、などをお聞きし、サービスに活かせるよう見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の能力に応じて日常生活の中で出来ることを一緒に行ったりできないことは協力しながらご本人ができるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には一緒に時間を過ごせるよう環境を作ったり一緒におしゃべりをしたり、可能であれば散歩に同行していただいたりして生活の共有ができて有意義な時間をともに過ごせるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の方が面会に来られたり遠方から電話をかけてきてくださる際には、自由にやりとりが出来るように対応している。携帯電話の所持も可能。手紙や年賀状が送られてきたり、ご家族と協力しながら今までどおり交流を図れるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で毎日の日課やレク活動を利用者同士が支えあい、助け合いながら円滑に行っていたりできるように努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には何かあれば気兼ねなくご連絡いただけるようお話している。また入院中には面会に行き関係が途切れぬよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居時やケアプラン作成時、更新時には必ず意向を聞き職員間で話し合いご本人、ご家族の希望が反映される支援を心掛けている。ご自分で訴えられない方にはご家族と職員間で情報交換をし、ご本人の視点に立ち支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴や趣味、特技、好きなものなどを情報提供書などで把握し、日常生活の中での行動からも情報を引き出し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に役割をもっていただき、持っている力を把握し、無理なく生活の中で発揮できるよう職員間で話し合いながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には面会時や電話、毎月のお便りで生活状況の報告し、意向や要望を聞き、毎日の生活の中からお利用者様の課題を見いだしてご本人の要望を踏まえ、担当者間で検討を行いケアプランを作成している。		
27		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は3カ月ごとに定めたお一人お一人の目標に沿って、1日の生活の様子や状態をケース記録に記入し職員間で情報共有し実践、計画の見直しに生かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば行事や誕生日会などを利用してご本人のニーズに柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や個人のお買い物、お墓参り、季節の行事などを一緒に毎日暮らしを楽しんでいた だけよう努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師の定期的な往診や病院受診、または必要な時にはご家族と一緒に病院受診をし対応を相談したり協力機関との連携を行い支援しております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を結んでいる訪問看護ステーションと情報交換を行い状況に応じて適切な処置が受けられるよう支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して入院生活が送れるよう面会に出向き慣れない環境でも治療がスムーズに受けられて早期に退院ができるよう支援している。また面会に行った時には必ず施設職員であることを伝えて関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご本人、ご家族にもしも状態が変化した時のご本人の意思・意向(リビングウイール)や対応をお聞きして状態の変化に応じて、その都度、説明を行って話し合い意向に沿えるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療法人のメリットを活かして速やかに医師や訪問看護など医療連携が出来る体制になっている。事故時の対応については日頃から職員は実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練時には職員全員が参加できるようにして対応できるようにしている。また消防署立ち合いの訓練を実施し助言を生かせるよう心がけている。地域の防災訓練にも参加し交流を深め協力体制作りを努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外部研修や学習会の中で認知症への理解を深め利用者様一人一人の人格を尊重し思いやりのあるケアができるよう努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝の着替えや入浴時の服選びなどご本人の好みを聞いたりご自分で用意していただいたり利用者様のやりたいことなどないかを職員に気軽に話せるようコミュニケーションに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の残っている力に応じて、これまでの生活歴を念頭に入れながら、その日の体調などを考慮しながら日々、楽しんでいただけるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で整容できない利用者様には職員が配慮して、ご自分でできる方とは一緒に選んでおしゃれができるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好き嫌いを把握し咀嚼や嚥下状態に応じて個別に対応しております。食事の前のテーブル拭き、ナプキンのセッティング、食事の配膳、下膳、食器洗い、片付けなどできることは、毎日役割として行い、食事の盛り付けも手伝っていただいている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量のチェックを行いタイヘー食品のメニューにより栄養管理されている。毎月一回の体重測定により健康状態の把握をし体重の増減によってDrに相談したり、活動の内容を職員間で話し合いながら支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声掛けを行い歯磨きや義歯の洗浄をして口腔内の清潔を保持できるようにしている。月に1回、訪問歯科の往診もあり治療や状態確認を行っている。職員は歯科医からの助言によりケアを行っている。			

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お2人以外はトレパンは使用しておらず、排泄の自立をめざしている。尿意、便意が少し感じづらい方には、排泄チェック表を活用し時間をみて声掛けを行い、失敗しないよう工夫している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確認や体操、散歩、レク活動において体を動かすなどして便秘予防に取り組んでいる。薬剤の使用は医師と相談し、できるだけ自然に排泄できるよう薬の量など調整している。なるべく薬を使わず排泄できるよう便秘の際はオリゴ糖入り牛乳を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日3名の方に入浴していただき、入浴日、時間帯は決めているものご本人の希望により臨機応変に対応している。入浴は、ご本人のペースで行っており、できないところのみ介助している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所時の情報により寝る時間、生活パターンを把握し、日中の活動に力を入れ、夜、ぐっすり眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当職員に入居者情報を記入してもらうことで飲んでいる薬や既往歴を把握してもらい、ケース記録に分かるようにファイルしていつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味、得意な事、好きな事が出来るように毎日の日課として継続できるように支援している。発言や行動等でご本人がしたい事、食べたいもの、欲しいもの等をお聞きして支援できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の会話の中で出たご利用者様の希望やご家族からの希望を把握し、行事を利用して出かけるよう支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金についてご利用者様同士で一度トラブルがあり、以後、なるべく現金は所持しないようご家族様、ご利用者様にお伝えし了承いただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各ユニットのホールにいつでも使用できる電話があり取り次ぎにも対応している。携帯電話を所持されている方もおり自由にご家族、ご友人に電話をかけることが出来ている。また年賀状や暑中見舞、お手紙のやりとりも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な清掃(利用者様と一緒に)と換気を行い清潔で居心地のいい環境を保つよう心がけている。季節の行事のお知らせ、ポスターやカレンダーなど利用者様に作成していただきホールに掲示して季節を感じる事ができるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士が気軽に話せるように席を考慮している。各ユニットのホールにはソファを配置しリラックスしていただけるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談して使い慣れて馴染み深い家具、思い出の品物、写真を飾っていただき落ち着いた雰囲気の中で安心して暮らせるようプライバシーにも配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙などにより、場所の把握がしやすいようにしたり、注意事項を知らせ、目につく所に貼って安心して行動できるようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと